

- 1 単元名 要旨を把握するための、説明的な文章の読み方ガイドを作ろう
- 2 単元の目標
- (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕
- (1)カ
- (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C
- (1)ア
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
- 3 本単元における言語活動
説明的な文章の読み方ガイドを作る。 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ	「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)	要旨を把握するための見通しを立て、進んで言葉の働きや使い方に着目し、粘り強く文章全体の構成を捉え要旨を把握しようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本教材は、序論、本論、結論で構成されており、書き手は考えを伝えるために、接続詞や問いの文、具体例など、様々な表現の工夫を用いている。書き手が用いている表現の工夫に気付き、叙述に着目することで、文章全体の構成が捉えやすくなっている。そのため、着目する言葉を明確にしながら、論の進め方を捉えるのに適した教材である。また、本論では、3つの事例(歴史、文化、和菓子を支える人々)が示されており、本論で述べられた事例が要旨に結びついている。文章構成図に内容をまとめることで、どのような事例が意見につながっているかの関係を捉え、要旨につながるキーワードを捉えることができると考えた。そのため、文章全体の構成を捉えた上で、要旨を把握するのに適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童に対して、文章全体の構成を捉え、要旨を把握する実態調査(令和5年*月*日実施、第5学年*組*人)を行った。調査では、第4学年で学習した説明的な文章教材「数え方を生み出そう」の本文を序論、本論、結論の意味段落に分け、本論をさらに3つに分けるということを行った。その結果、意味段落を分けることができた児童が*人、意味段落を分けることができなかった児童が*人であった。誤答を分析すると、序論と本論を分けることができなかった児童が*人、序論と本論のみ分けることができた児童が*人、序論、本論、結論のみを分けることができていた児童が*人、無答が*人であった。また、要旨を把握するという実態調査も行った結果、要旨を把握することができた児童が*人、要旨を把握することができなかった児童は*人で

あった。誤答を分析すると、具体例など要旨とは別の内容を捉えていた児童が*人、要旨を把握し切れていない児童が*人、無答が*人であった。さらにどのように意味段落を分けていたかを調べた所、文頭の接続詞のみに着目していた児童が*人いた。これらの結果から、本学級の児童は意味段落をどのように分ければいいのか、また、文章全体の構成の中で、要旨をどのように把握すればいいのか理解できていないことが分かった。そのため、本単元において、文章全体の構成を捉え、要旨を把握する力を育てたいと考えた。

(3) 指導観

本単元では、説明的な文章の読み方ガイドを作るという言語活動を設定した。児童たちはまず、要旨を把握するために必要な学習課題を考える。既習事項を振り返りながら学習課題を作り、読み方ガイドの目次として整理することで、学習の見通しを立てる。次に、言葉に着目しながら文章構成図を作る。文末表現や接続詞などの言葉を手がかりに、序論、本論、結論の意味段落に分け、見出しを付ける。さらに、文章構成図作成シートを用いながら、本論の内容を詳細な文章構成図にまとめる。文章構成図を作る中で言葉に着目しながら内容を整理し、事例と書き手の考えを捉え、文章全体の構成を捉える。また、文章構成図からキーワードを捉え、要旨を把握する。要約サポートシートを用いて、把握した要旨を明確にし、元の文章の構成を生かしながら文章全体を要約する。そして言葉の働きや使い方についてまとめた読み方ガイドを活用しながら、他の説明的な文章教材を読み、文章全体の構成を捉え、要旨を把握していく。読み方ガイドを用いて単元を通した学びを振り返ることで、学びを実感し、他の説明的な文章教材でも学びを活用しようとする意識を高めていく。これらの活動を通して、文章全体の構成を捉え、要旨を把握する力を育てることができると考える。

6 単元の指導計画（4時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	課題 筆者が伝えようとしていることは何だろうか。 - 本文の要旨が何かを考えながら文章を読む。 - どのように要旨を把握しようとしたかをグループで話し合う。				- 説明的な文章では、筆者は考えを伝えようとしていることを確認する。 - 要旨という言葉について確認し、筆者の伝えようとしていることを意識できるようにする。 - どのようにすれば要旨を適切に把握することができるか疑問をもたせることで、次時の学習につなげることができるようにする。
	2	目標：既習事項を振り返りながら学習課題を作り、学習の見通しを立てることができる。 1 学習課題を知る。 課題 どのような学習をすれば、要旨を把握することができるだろう。 2 説明的な文章を読むことに関するアンケート結果を基に、説明的な文章を読む目的について考え、ペアで考えを交流する。				- 前時の学習を振り返り、要旨を把握するための学習課題を、主体的に考えることができるようにする。 - 事前にアンケートを取り、児童の実態をまとめたものを提示することで、児童が説明的な文章を読む目的を考える参考にできるようにする。 - 児童が興味をもつような本を紹介し、説明的な文章を読む目的について考えることができるようにする。 - 事前アンケートを基に、説明的な文章で学習してきた学習内容をまとめたものを提示し、本単元の学習課題を考

		3 既習事項を振り返りながら要旨を把握するための学習課題を考え、ワークシートに書く。 4 考えた学習課題についてクラス全体で確認し、要旨を把握するための学習課題を整理する。 5 説明的な文章の読み方ガイドを作り他の説明的な文章を読む際にも活用することを知る。			える際の参考となるようにする。 ・前時の学習や既習事項を振り返りながら、要旨を把握するための学習課題を考える参考とする。また、考えた学習課題について交流し、学習課題の目的を考えることができるようにする。 ・学習課題を項目立て、読み方ガイドの目次とすることで学習プロセスを可視化し、要旨を把握するまでの見通しが立てられるようにする。 ○ 態①：見通しを立て、読み方ガイドの目次を書いているかを見取り、見通しを立てることができていない児童には項目立てた学習課題を確認するよう助言する。 【ワークシート】
3	3	課題 どのような表現に着目すれば、本文を意味段落に分けることができるだろうか。 ・既習事項を振り返り、序論、本論、結論にはどのようなことが書かれているかを確認する。 ・問いの文やまとめる表現に着目しながら本文を序論、本論、結論に分ける。 ・順序を表す表現に着目しながら本論を三つに分ける。 まとめ 問いの文やまとめる表現、順序を表す表現に着目すると、序論、本論、結論の意味段落に分けることができる。	○		・文章構成を捉えることの目的について確認し、児童が要旨を把握するために必要な課題であることを知り主体的に学習課題に取り組めるようにする。 知①：序論、本論、結論の論の進め方について理解し意味段落に分けている。 【ワークシート】 ・既習事項を振り返ることで、児童が問いの文やまとめる表現、順序を表す表現を具体的に考え、着目する表現を捉えることができるようにする。 ・問いの文やまとめる表現、順序を表す表現に線を引き、着目した表現を明確にし、根拠を明確にしながら意味段落に分けることができるようにする。 思①：意味段落に分けているかを見取り意味段落に分けることができていない児童には問いの文やまとめる表現、順序を表す表現に着目するよう助言する。【ワークシート】
	4	課題 どのような表現に着目すれば、見出しをつけることができるだろう。 ・見出しの意味について確認する。 ・呼びかけの表現や、段落の最初や最後の文が見出しになることが多いことを確認する。 ・作った見出しについてグループで話し合い、根拠を説明し合う。 まとめ 呼びかけの表現や、段落の最初や最後の文に着目する		○	・見出しをつけることの目的を確認することで、児童が主体的に学習課題に取り組めるようにする。 ・呼びかけの表現を用いる時にはどのような文末になるかを確認することで、児童が着目する表現を探す参考にできるようにする。 ・段落の最初や最後の文には、内容をまとめている文が多いことを確認する。 ・呼びかけの表現や、段落の最初や最後の文に線を引くことで、着目した表現を明確にしながら、児童が見出しをつけることができるようにする。 思①：キーワードを探し見出しをつけることができているかを見取り、見出しをつけることができない児童

		ことで、見出しをつけることができる。				には呼びかけの表現や、意味段落の最初の文に着目するよう助言する。 【ワークシート】
5		課題 どのような言葉が、要旨につながるキーワードだろう。 ・前時で作った見出しを用いながら、文章構成図を作る。 ・どのように文章構成図を作ったか、根拠をグループで話し合い、確認する。 ・文章構成図を基に、序論、本論、結論で繰り返される言葉を探す。 ・キーワードをワークシートに記入する。 まとめ 本論や題名の中で、結論で書かれていることと共通する言葉に着目することで、要旨につながるキーワードをとらえることができる。		○		・前時で作った見出しをジャムボード上でカードにし、児童が個別に操作しながら文章構成図を作ることができるようにする。 ・児童が作成した文章構成図をICTを用いて共有し、全体で確認したものを基に要旨を把握するようにする。 ・繰り返される言葉をクラスで確認し、線を引くことで着目する言葉を明確にし、キーワードとして捉えることができるようにする。 思①：キーワードを書くことができているかを見取り、書くことができていない児童には、本論や題名の言葉に着目するよう助言する。 【ワークシート】 ○ 態①：進んで読み方ガイドをまとめているかを見取り、まとめていない児童には共通の言葉に着目するよう助言する。 【ワークシート】
6 7 検証 授業		目標：事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を押さえることができる。 課題 どのような事実を根拠に、要旨が述べられているだろう。 1 本論1を基に、文章構成図のまとめ方を確認する。 2 本論2・3を文章構成図作成シートにまとめる。 3 着目した言葉や具体例、本論をまとめる内容を確認する。		◎		・既習事項を振り返りながら、具体例に着目することで事実と意見の関係を捉えやすくなることを確認し、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・作成シートを用いながら文章構成図の作り方について、クラス全体で作り方を共有し児童が具体例の書き方について理解できるようにする。 知1：事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて理解している。 【観察・ワークシート】 ○ 思1：本論をまとめた文を書くことができているかを見取り、書くことができていない児童には「このように」などの言葉に着目するよう促す。 【ワークシート】 ・着目した言葉の使い方や働きについて確認し、「例えば」「このことから」などの言葉の後には、どのような事柄が述べられているかを考えることができるようにする。

		4 文章構成図を基に、どのような具体例を根拠にしているか、考えたことを交流する。 まとめ 言葉の働きや使い方に着目することで事実と感想、意見の関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることができる。 5 本時の振り返りを読み方ガイドに記入する。			・具体例で挙げられている事柄が、本論をまとめた内容につながっていることを確認する。 ・「わたしたち」という具体例があることを確認し、要旨は自分たちにつながるものであることについて、児童が気付くことができるようにする。 ・読み方ガイドにまとめと振り返りを記入するとともに、読み方ガイドの目次を確認し、学習プロセスを確認できるようにする。 ・活動を通しての気付きや今後の学習に生かしたいことを書くよう助言する。
	8	課題 どのような構成や表現の工夫をすれば、読んだことのない人にも要旨を分かりやすく伝えられる要約文を書くことができるだろう。 ・前時までの学習を振り返り、要旨を把握し、要約サポートシートに記入する。 ・要旨を最後に書く文章構成にすることで、根拠が明確になることを確認する。 ・順序を表す表現を使うことで、本論の内容を整理して要約できることを確認する。 ・文章構成図を参考にしながら、要約文を書く。 ・書いた要約文を読み合い、要旨を明確にして書くことができているか確認する。 まとめ 要旨を最後に書く文章構成や、順序を表す表現を用いることで、要旨の明確な要約文を書くことができる。		◎	・要旨を文章にまとめることの目的について確認し、児童が主体的に要約文を書くことができるようにする。 ・前時までに学習したキーワードを確認し、結論部から要旨となる一文を書くことができるようにする。 ・本文の文章構成を確認し、元の文章の構成を生かし、要旨を最後に書くことで、要旨を明確して要約できることに気付くことができるようにする。 思①：事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【ワークシート】
4	9 10	課題 読み方ガイドを使いながら、他の説明的な文章を読み、要旨を把握しよう。 ・読み方ガイドをまとめ、本単元で学んだ観点や、それぞれの振り返りについて交流する。 ・他の説明的な文章を読み、意味段落に分け、要旨を把握する。 ・要旨を把握し、グループで確認する。 ・単元を通しての振り返りをする。		○ ◎	・他の説明的な文章で要旨を把握する際にも読み方ガイドを活用できることを確認し、進んで言葉の働きや使い方に着目することができるようにする。 ・読み方ガイドを用いながら、どのような言葉に着目してきたかを確認し、児童が本単元を通して学習したことを振り返ることができるようにする。 思①：事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【ワークシート】 ◎ 態①：読み方ガイドを活用しながら、粘り強く文章全体の構成を捉え、要旨を把握しようとしている。 【振り返り】